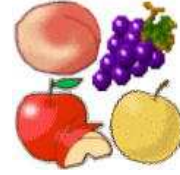




# 平成24年度 果樹情報 第14号

(平成24年10月3日)



福島県農林水産部農業振興課

## 1 気象概況 (9月4～6半旬：果樹研究所)

平均気温は4半旬が26.3℃で平年より5.6℃高く、5半旬が18.6℃で0.4℃低く、6半旬が19.6℃で平年より1.5℃高い状況でした。この期間の降水量は120.5mmで平年の153%でした。

## 2 土壌の水分状況 (10月1日現在)

果樹研究所における土壌水分 (pF値：無かん水・草生栽培りんご園) は、深さ20cmで1.8、40cmが2.0、深さ60cmが2.5でともに適湿状態にあります。

## 3 生育概況 (果樹研究所)

### (1) なし

#### ア 主要品種の収穫時期と果実品質

「幸水」の収穫始めは8月28日で平年より1日遅く、収穫盛りは9月1日で平年より1日早い状況でした。また、平均果重は369g (平年373g)、糖度は12.7 (平年12.6) でした。

「豊水」の収穫始めは9月18日で平年より3日遅く、収穫盛りは9月22日で平年より1日遅い状況でした。また、平均果重は395g (平年426g)、糖度は14.1 (平年12.7) でした。

#### イ 「ラ・フランス」の成熟経過

果肉硬度はほぼ平年並に推移しています。デンプン指数は平年よりも高く推移しています。

※ 西洋なしのデンプン指数：ヨードカリ液による染色が濃いほど未熟 (指数1：果実切断面の10%以下が染色、指数2：30%程度染色、指数3：50%程度染色、指数4：80%程度染色、指数5：100%染色)。

### (2) りんご

#### ア 果実肥大 (10月1日現在)

果実肥大を暦日で比較すると、「ふじ」は縦径80.6mmで平年比102%、横径が87.9mmで平年比102%とほぼ平年並みの状況です。

また、満開後日数による比較では、平年よりやや大きい状況です。

#### イ 「ふじ」の裂果発生状況

9月27日現在の「ふじ」/マルバカイドウ (47年生) の内部裂果発生率は37% (昨年40%)、外部裂果発生率は8% (昨年4%) の状況でした。

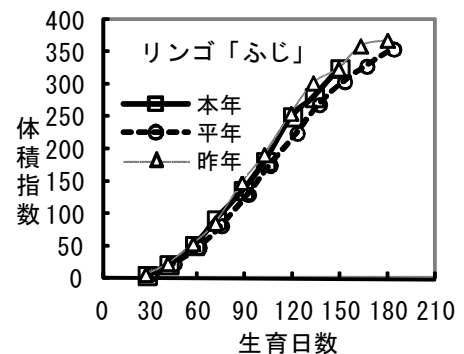


図2 りんごの果実肥大 (10月1日現在)

#### ウ 「ふじ」の果実成熟状況 (満開後143日)

9月24日現在の「ふじ」の成熟状況は、硬度は17.0ポンドで平年より低く、デンプン指数は2.4で平年並みの状況でした。また、糖度は11.5で平年並み、リンゴ酸は0.41%でわずかに低い状況でした。果皮中のアントシアニン含量はわずかで、クロロフィル含量は平年より多い状況でした。

※ リんごのデンプン指数：ヨードカリ液による染色が濃いほど未熟 (指数1：100%染色、指数2：果芯部以外染色、指数3：果芯部の外側まで染色せずデンプンが消失しており果実切断面の50%以上が染色、指数4：果実切断面の20～50%が染色、指数5：染色部位はほぼ果皮直下に限られる)。

#### 4 栽培管理上の留意点

##### (1) なし

###### ア 「ラ・フランス」の収穫

県の収穫基準ではデンプン指数1.5～2を収穫適期としているが、高温で推移した年はデンプン指数が高めに推移するため、高めの基準で収穫することが望ましいと考えられます。今年同様の高温年であった2010年は、デンプン指数をやや高めで収穫したものが、その後の追熟経過も良好であったことから、今年については通常の基準より高めのデンプン指数3.5を目安に収穫しましょう。

なお、デンプン指数が3.5となるのは生育日数でおよそ160日頃（果樹研究所で10月7日）です。収穫が遅れると果肉褐変や粉質化など品質や食味低下の原因となるので注意しましょう。

##### (2) りんご

###### ア 「ふじ」の収穫前管理

反射シートの敷設は、10月上旬頃から開始しましょう。

また、無袋栽培における摘葉は、果面の30%程度が着色した10月中旬頃から実施し、果実に付着した葉や日陰をつくっている葉（新梢の基部葉）まで含めてやや強目（4～5枚）に実施しましょう。その後、着色の進んだ段階で、玉まわしと併せて見落したのものについて実施します。栽培面積が多く9月末頃から実施（この場合は軽く実施）した場合は、10月中～下旬に再度強目に実施しましょう。

###### イ 中生種の収穫

地色、着色、デンプンの抜け、果実の肉質、食味等から総合的に判断し、品種特性に応じて収穫適期の果実から収穫しましょう。特に、樹冠上部、外周部等の直射日光の当たる着果部位や樹勢の弱い樹については、成熟の進行が早い傾向にあるので、収穫が遅れないように注意しましょう。

##### (3) ぶどう

###### ア 基肥

基肥の施用は、落葉前の10～11月に行いましょう。「巨峰」の成木の施肥量は、チッ素が6 kg/10a、リンが8 kg/10a、カリが8 kg/10aを目安とします。

樹勢が強い場合は、チッ素の施用量を減量しましょう。また、礼肥で施用した分や、堆肥や有機質肥料および土壌改良時に施用する分は差し引いて施用します。油粕などの有機質肥料は分解に時間がかかるので、10月中旬までに施用しましょう。

###### イ 縮伐・間伐

縮伐・間伐は収穫終了直後に行いましょう。この時期は落葉前であるため、枝の混み具合がわかり、残った枝への日当たりが良くなり、貯蔵養分の蓄積にも有効です。樹冠が拡大し枝が混み合ってきた場合は、早めに間伐や縮伐を実施しましょう。なお、縮伐した樹では、地上部と地下部のバランスをとるために、断根を行いましょう。

#### 5 病虫害防除上の留意点

##### (1) 病害

###### ア ももせん孔細菌病

9月30日から10月1日にかけて台風17号が本県を通過しましたが、風雨が強く落葉がみられた園では、病原菌が落葉痕などから感染した可能性が高いと判断されます。台風前に秋季防除を実施していなかった場合、直ちに防除を実施しましょう。

秋季防除を2回実施した園でも、新梢葉や果実での発生が多かった園では、落葉前までにさらに1回秋季防除を追加し（計3回）、越冬菌密度の低下を図りましょう。

イ なし黒星病

冷涼多雨な気象になると翌年の伝染源となる芽への感染が増加するため、本病の発生が多かった園では秋季防除を実施して越冬菌密度の低下を図りましょう。まだ2回目の秋季防除を実施していない園では、できるだけ速やかに防除を行いましょう。

また、本病の発生が多かった園で落葉が遅い場合には、3回目の秋季防除を実施しましょう。

**病害虫の発生予察情報・防除情報**

病害虫防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

<http://www.pref.fukushima.jp/fappi/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。